

<研究テーマ>

遊びに生きる子どもを育む ～遊びの育ちを追いながら～

1年次の研究の取り組み

子どもの遊んでいる姿ってどんな姿？

園生活では様々な子どもの遊びの姿があります。すべて子どもにとっては遊びです。子どもの遊ぶ姿を受け止め、見守ることで、園生活を安心して送り、遊びを存分に楽しむことができると考えています。その中でも、幼稚園という集団生活の中では、人やものとの関わりの中で、広がったり、深まったりしていく遊びを支えていきたいと考えました。

子どもの遊びの姿から・・・

日々の記録や実践事例、園内研修会で、遊びの経過や遊んでいる子どもの姿を具体的に記録しました。

子どもが遊びの中で「楽しさ」や「おもしろさ」を感じている姿を捉えたり、遊びが広がったり、深まったりした要因を探ったりしました。

遊びを読み取るための記録の検討

遊びの経過や、遊んでいる子どもの姿を読み取るためには、日々の記録が大切であることを話し合い、遊びの中での具体的な姿を「マップ型記録」に記録することにしました。また、「楽しさ」や「おもしろさ」を感じていること、翌日の環境構成や教師の援助などを記載することで、記録したことを明日の保育につなげられるように工夫しました。

遊びに生きる子どもの姿とは？

日々の保育や実践事例をもとにしながら、「遊びに生きる子ども」とは、どのような姿かを話し合いました。その中で、「興味・関心をもち自分から関わる姿」「繰り返し遊ぶ姿」「試行錯誤しながら関わる姿」「夢中になって関わる姿」「友達と関わり合う姿」「目的をもって関わる姿」「課題を解決しようとする姿」以上のような、遊びの中で見られる子どもたちの姿を大切にしていきたいと考えました。また、遊びの中で得たこと、体験したこと、学んだことを次の生活に生かそうとする姿を大切にすることで、遊びに生きる子どもを育むことにつながるのではないかと考えました。

2年次の研究の取り組み

2年次の研究の進め方について考えよう

保育の中で教師はどのように瞬時に援助の方法を考え行っているのだろうか？

教師の内面の動きを可視化できるような記録のとり方を考え直そう

保育についてみんなで語り合える機会をつくろう

遊びが広がったり深まったりするための教師の援助や環境構成の在り方に視点を置いて

遊びを通して子どもの育ちを追っていこう

遊びに生きる子どもの姿って具体的にどんな姿だろう？

教師の援助や環境構成によって遊びがどのように変容したのかを捉えよう

実際の進め方は・・・？

日々の記録

- ・遊びの中で子どもたちが、その遊びの何に楽しさやおもしろさを感じているのかを捉えて記録する。
- ・教師の心の動きや考え、願いを明記し、どのような援助や環境構成を行ったのかを具体的に記録する。
- ・教師の援助や環境構成によって遊びや子どもの姿が、どのように変容したのか考察し記録する。

園内研修会

- ・教師が遊びの中で子どもと関わっている様子を中心に動画で撮影し、共通の場面を捉えながら、子どもの姿の読み取りや、教師の援助や環境構成について話し合い、見直していく。
- ・大学の先生方に保育を見ていただいたり、研究の取り組みを聞いていただいたりして、様々な視点からの意見をもとに研究を深める。

実践事例検討

- ・遊びが広がったり深まったりした要因を、教師の援助や環境構成に視点を当て具体的に記録する。
- ・遊びが広がったり深まったりしなかった事例も記録し、その要因を探ったり、援助や環境構成の在り方を捉え直す。

保育実践

保育の話し合い

- ・子どもの姿や遊びの様子、教師の思いや悩みなどを語り合う機会をもつ。
- ・保育室や園庭の環境を教師みんなで見合いながら共有したり、気付いたことを伝え合ったりして環境を再構成していく。

保育内容の発信

- ・運動会、展覧会、発表会などの行事に至るまでの日々の遊びの積み重ねや、保育のねらい、子どもの成長の様子などを写真や子どもの言葉などを用いてドキュメンテーションを作成し、保護者に向けて発信する。
- ・作成する中で保育を振り返り、遊びの中での子どもの育ちを捉えるようにする。

遊びは人やものなどの環境と関わる時に生まれると考えます。その遊びが広がったり深まったりしていく中で、「興味・関心をもち自分から関わる姿」「繰り返し遊ぶ姿」「試行錯誤しながら関わる姿」「夢中になって関わる姿」「友達と関わり合う姿」「目的をもって関わる姿」「課題を解決しようとする姿」など、様々な姿が育まれます。遊びの中で育まれた姿が今後の生活に生きてくるという体験を繰り返すことで、「遊びに生きる子ども」も少しずつ育まれていくのではないかと考えました。

遊びの育ちを追って（3歳児）

子どもが遊びの楽しさ、おもしろさを感じている姿を子どもの言葉で

教師の思い・願い

環境構成・再構成・教師の援助

遊びの育ちの捉え

新しい遊具を好きな遊びに取り入れて遊ぶ姿を通して（Ⅱ期）

自分の空間をつくって遊ぶことをより楽しめるように、大きさや形を変えられる遊具を置いてみよう。

- 登園時、子どもの目につきやすいところに牛乳パック（12本）をガムテープでつないだものを3つ並べて円形の囲いをつくって置いておく



ここ、お家やねん。
一緒に入ろう

ごちそうもってきたよ。
いっぱい、いれよう

真っ直ぐにならないね。
どうすればいいかな？

自分で新しい遊び方を考えて遊ぼうとしているが、遊具の扱い方が分かるほど関わっていないので、子どもだけで考えることはまだ難しいようだ。教師が方法を知らせることで遊びを継続してほしい。

- 坂道をつくるための具体的な方法（向き）を知らせる

何にでも見立てられる遊具を用意したことで、ミニカーで遊ぶ時に使う道に見立てることができ、自分で道をつくって遊ぶようになった。

坂道も
つくろう

見て、道ができた



- 遊具の数を増やす

それぞれが自分の好きな遊びに遊具を取り入れて遊ぶことを楽しみ始めているので、遊具で遊ぶ楽しさを充分に感じることができるようにしよう。

自分のつくりたいものをつくらうとする姿を支えるために、教師がヒントを出すことで、自分でつくる喜びを感じられるようにしよう。

- 傾斜を付ける時に必要な条件を知らせる。

もっと、高くしよう。
どうしたらいいかな？

わー、（車が）走った



門になったよ

遊びが広がったり深まったりした
教師の援助と環境構成

- 遊び方や使い方の提示
- ものに関わる時間の保障
- ヒントとなる具体的な言葉掛け
- 目新しいもの
- 何にでも見立てられるもの
- 自分たちで形を変えられるもの
- 十分な数のもの

ソフトフープを使った遊びを通して（Ⅲ期）

広い場に豊富な数のソフトフープを用意することで、遊び出すきっかけになるといいな。何度も転がしたり追いかけたりしながら、繰り返し遊ぶ楽しさを味わってほしい。

- 転がしたり回したりして存分に楽しめるよう、広い場所にソフトフープをたくさん用意しておく
- 教師も一緒に遊びながら、転がるおもしろさに共感したり、もう一度やってみようとする意欲を高められるような声掛けをしたりする

どこまで転が
るかな？



見てて！
5個転がせるよ



B 児の考えた遊びを教師と一緒に楽しむことで、自分の思いを出しながら遊ぶ楽しさを味わってほしい。また、周りの子どもにも友達の姿に気付いたり、興味をもったりできるようにしたい。

おもしろそう！
僕は3個で
やってみよう



- 子どもが考えたことを認め教師も一緒にやってみる

子どもが考えた遊びを認め、教師も一緒にやってみることで友達のしている遊びに興味をもつきっかけとなり、一つずつ転がしていたのが、友達の真似をして複数のソフトフープを転がす遊びに変わっていった。

友達がしている遊びに興味をもち始めているようだ。日頃は一人で遊ぶことが多い A 児も誘い掛けて一緒に遊ぶきっかけをつくってみよう。

みんなで一緒
に転がそう！



ジャンプ
してみよう

- 周りの子どもにも聞こえるような声で話し、同じ遊びをしている友達に興味をもてるようにする
- 教師が間に入って遊びに誘い掛け一緒に遊ぶきっかけをつくる

教師がB 児の考えを受け止め、周りの子どもたちを誘い掛け一緒に遊ぶきっかけをつくったことで、友達とタイミングを合わせてソフトフープを転がす遊びへとつながった。

ソフトフープを使って繰り返し遊ぶ時間を保障することで、ソフトフープを跳んだり、並べ方を変えたりして、いろいろな遊びをやってみようとするようになった。

ここまで
行けた



遊びが広がったり深まったりした教師の援助と環境構成

- じっくり遊べるような広い場と時間の保障
- 友達と一緒に遊べる豊富な数のソフトフープ
- 一緒に遊びながら楽しさに共感したり考えを受け止めたりする教師の関わり
- 友達のおもしろそうな遊びを知らせる言葉掛け
- 友達と一緒に遊ぶきっかけとなる教師の関わり

遊びの育ちを追って（4歳児）

子どもが遊びの楽しさ、おもしろさを感じている姿を子どもの言葉で

教師の思い・願い

環境構成・再構成・教師の援助

遊びの育ちの捉え

虫探しを通して（Ⅰ期）



さっと開けたらすぐ
閉めるねんで

教師の手助けなしで、何
か方法を考えられないかな。
年長の虫を探す姿を見て
きたことを生かせないかな。

中に虫がいるから、かごを開けると逃げてしまう

どうしたらかごの中に入れられるかな



教師がすぐに方法を提示するのではなく、周りの様子を知らせたことで、年長児の姿に気が付くことにつながった。真似て遊ぶことで、かごに草を入れたり、虫の捕まえ方を工夫したりする遊びにつながった。



年長さんが葉っぱいっぱい入れてたで

年長児に教えてもらったことをきっかけに、虫を育てることに興味をもってほしいな。

・近くで虫探しをしている年長の姿を知らせる。



年長さんみたいな長い網が欲しいな

・捕まえた虫の入っているかごは、子どもたちがいつでも触れられるように、手の届くところに置いておく。

年長児の姿を真似るようになってきたので、B児が以前から捕まえたかったセミを年長児も捕まえていることを知らせてみよう。

バッタが可哀そうだよ



セミはバッタを食べるから一緒に入れよう

繰り返し虫探しをすることで、探して捕まえることから育ててみたい思いをもち、育てるにはどうしたらいいかを考えながら虫と関わる遊びにつながった。

遊びが広がったり深まったりした
教師の援助と環境構成

- ・子どもが自分で考えることができるような言葉掛け
- ・子どもの目につく場所に、虫かごのある環境
- ・他学年への気付きの促しと、周りの姿が分かるような言葉掛け

泡遊びを通して（Ⅱ期）

スポンジをギュッギュッてしたら泡がいっぱいでてきたよ

・水の量を自分で調整しながら泡をつくることできるようにスポンジに水を含ませたものを用意する



泡をもっと大きくするのに泡だて器が欲しいな

わー富士山みたい！ツツンしてる

泡のきめの細かさや硬さに気付き友達と一緒に泡をつくることを楽しんでほしいな。



・泡だて器を準備し教師が泡だて器を使ってフワフワの泡をつくって見せる

泡の感触を味わったり、泡をつくる楽しさを感じたりしてほしいな。

教師が泡をつくって見せることで、もっとフワフワの泡をつくりたいという意欲につなげたい。

泡づくりをもっとしたいと思うタイミングで道具を出すことで、泡をつくることを存分に楽しみ、満足感や達成感を感じることが、もっといっぱいつくりたいという気持ちにつながった。

クリームみたいでおいしそう！ケーキができそうだな。



A児のケーキのクリームに見立てたアイデアが周りの子どもにも伝わるといいな。



・子どもの思いに共感し、ごっこに広げられるよう、お玉、コップ、スポンジを準備する。
・ごっこに必要な物を自分たちで考えられるような言葉掛けをする

子どもの思いを捉え環境を再構成することで、泡をクリームに見立て、ケーキやアイスクリームなどとイメージを膨らませてつくることを楽しみ、お店屋さんごっこへと遊びが広がった。



遊びが広がったり深まったりした
教師の援助と環境構成

- ・子どもの思いや発見を受け止め、周りの子どもたちに伝える言葉掛け
- ・道具が必要なタイミングの見極め
- ・いろいろな道具を使いながら、試したり工夫したりして遊べる環境
- ・子どものつぶやきを捉え、子どもの思いが実現できるような用具

ダンスの遊びを通して（Ⅲ期）



好きな遊びの時間にも、ダンスを踊る楽しさを感じてほしいな。

みんなで一緒に踊る活動を取り入れることで、ダンスが好きな遊びになるといいな。

・いつでもダンスの遊びができるように、テラスにCDデッキを置いておく



初めて出した場なので、踊り始めるには時間が掛かるかもしれない。教師が踊って見せることで、やってみようという気持ちが出てほしいな。

楽しそうだな



一緒に踊ろう

教師が、子どもが踊っていないからと踊りを終わるのではなく、教師の踊りを見ている姿を受け止めることで、子どもが自分からやってみようとする遊びにつながった。



ショーみたいにしたいいいんじゃない

・ショーをするために必要なものに気付けるような言葉掛けをする
・周りの子どもが友達の考えに気付けるような言葉掛けをする

E児はショーをしたいという思いをもっているようだ。ステージをつかって踊るとい遊びに広がっていくのではないだろうか。周りの子どもにも投げ掛けてみよう。

E児の「ショーみたいにしたい」という思いを受け止め、周りの子どもに知らせたことで『ステージづくり』という遊びの環境を自分たちでつくる踊る遊びにつながった。



次はどの曲にする？

・子どもの興味に応じて、曲を準備する

曲を選ぶことができるようになることで、友達と次はどの曲にするか、曲の順番を話し合いながら遊ぶ姿につながった。

いくつか曲があることで、友達との曲にするかを話したり、よりダンスを楽しんだりしてほしい。

遊びが広がったり深まったりした
教師の援助と環境構成

- ・いつでもダンスの遊びができる環境
- ・遊び始めるきっかけとなる教師の関わり
- ・子どもの思いに周りの子どもが気付けるような言葉掛け
- ・子どもの思いを実現できるような具体的な言葉掛け
- ・子どもが自分で選択したり、友達と話し合ったりできる環境

遊びの育ちを追って（5歳児）

子どもが遊びの楽しさ、おもしろさを感じている姿を子どもの言葉で

教師の思い

環境構成・再構成・教師の援助

遊びの育ちの捉え

川づくりを通して（Ⅱ期）

泥だんご
つくろう

始めは、それぞれの楽しさやおもしろさの中での遊びだった。しかし、教師と子どもと一緒に遊びの方向性を明確にしていくことで、同じ思いや目的をもった遊びとなっていく。

どろんこ、気持ちいいな

船が動いた！

川をもっと大きく
しよう！



船の底が、川の底にくっついていなかったら、船は進んでいくと思うんだけどな

水や泥の性質や、感触を楽しみながら遊んでほしいな。また、その中での気づきが、遊びの広がりや、友達とのつながりのきっかけになるよう支えていきたい。

・それぞれの子どもが、自分にとっての楽しさやおもしろさを感じながら遊ぶことができるよう見守る

・子どもの気づきや思いを、周りの友達に知らせたり、伝えたりできるように支える
・友達や教師とのやり取りの中で、遊びの方向性を明確にし、イメージが共有できるようにする

リレー遊びを通して（Ⅲ期）

いろいろな友達と関わりながら、ルールのある遊びの楽しさや、競い合うおもしろさを経験して欲しい。まずは、好きな遊びの中で、エンドレスリレーを投げ掛けてみよう。

リレーしよう！



友達にどんどんバトンをつないでいこう！



一緒に走った友達に負けちゃった…

やったー！
勝った！！

頑張れ！！

勝負に気持ちが向いているのであれば、勝敗が明確にわかるリレーを通して、競い合うおもしろさを感じられるようにしてみてもいいかな。



負けないぞ！

繰り返し遊ぶことで、楽しさやおもしろさを見出すことができた。また、自分たちで遊びの場を整えたり、ルールをつくったりしていくことで、さらに自分たちの大好きな遊びになっていった。



負けたから
面白くないな…

負けたからおもしろくないという気持ちを、次にどのようにつなげていけばいいかな。繰り返し遊ぶ中で、勝ち負けどちらの気持ちも味わうことが必要ではないかな。

どうしたら、船が水に
浮くのだろう？



もっと川を深く
してみる？

勢いよく水を
流してみよう！

自分たちがイメージするには船が動かなかったという体験も必要だな。次はどの様にして遊ぶか、何が必要かを考える姿を見守りながら、次につなげていくための援助を考えていこう。

・子どもの気づきや思いを実現できるように、教師も一緒に考えたり、遊んだりしながら支えていく

風の力で動かしてみよう！



泥で水の流れを1回
止めて、勢いよく水を
流してみたいんだ！



共通のイメージや目的をもち、思いを実現させるために、友達と一緒に、試したり工夫したりする楽しさやおもしろさを感じられる遊びとなっていく。

遊びが広がったり深まったりした教師の援助と環境構成

- ・子どもと一緒に遊びの方向性を徐々に定め、時にはその方向性を整理したり、確認したりする機会をもつ
- ・子どもの気づきや思いをまわりの子どもに知らせたり、伝えたりするための言葉掛け
- ・自分で予想し、繰り返し試したり工夫したりできる場

- ・友達の話の聞いたり、自分の思いを自分の言葉で伝えたりする姿を丁寧に支え、積み重ねていく
- ・話し合いの場面では、走ることが苦手な友達の思いも聞くよう促し、いろいろな友達の気持ちをわかることができるようにする

走るの得意だから、早く
走って次の人にバトンを
渡せるようにするよ！



自分の番が来たら、
ドキドキしちゃうな…

走る順番は
どうする？

・勝った嬉しさは、さらに次の意欲へ、負けた悔しさは、次、勝つために必要なことを考えられるようにつないでいく。

・遊んだ後は、クラスで遊びを振り返る機会を設ける

遊びの中の気づきや困ったことを共有し、みんなでルールを考えたり、次につなげていくための具体的なアイデアを出し合ったりできるように支えていきたいな。



はい！！
次は任せ
たよ！

勝って嬉しい、負けて悔しいというように、競い合う中で様々な気持ちを味わった。また、いろいろな友達の姿や思いを知ること、受け止めたり認めたりしながら、一緒に遊ぶ姿が見られるようになった。そして、自分の力を出し切って友達と競い合うことを楽しむ遊びとなっていく。

遊びが広がったり深まったりした教師の援助と環境構成

- ・いつでも使うことができる用具
- ・自分たちで整えることができる遊びの場
- ・遊びを共有し、気づきや困ったことをもとに、ルールやより楽しくなる方法を話し合う機会
- ・話し合いの場で、友達の様々な思いを知ることができるような促し

遊びの育ちを追って（遊びが広がったり、深まったりしなかったと教師が捉えた事例）

お化けの家づくりを通して（3歳Ⅳ期）

黒ポリ袋を持って藤棚の下に行き、「最近、お化けがよく遊びに来るから、お家をつくってあげようと思ってね」と投げ掛ける。

（教師の援助、環境構成）

「Aもする」
「Bちゃんも手伝うわ」
「どうするの？」

（幼児の活動）



「どうしようかな？こんなの使おう
と思ってるんだけどね」と、風を受
けるようにポリ袋を広げて見せる。

ポリ袋の動きに見入る。
「上からしたらいいんち
ゃう？」「長くしよう」

「何してるの？」と、他児がやってくる。
「お化けのお家、つくってるねん」
「やりたい」

「じゃあ、長くしてみよう」
と、目の前で切り開く。

「どこに付けるのがいいか
な？」と問いを訊く。

「もっと付けよう」と、B、E児
は新しいポリ袋を柱に付けたり教師
が付けたポリ袋同士を自分でテ
ープどめをしていく。

「ここにしてい」「ここに
付けて」と、ポリ袋を持
って来る。付けてもらう
とA、C、D児はすぐに
その場を去ってしまう。

日頃、実践記録を取る際には、教師の援助や環境構成が幼児の思いや活動に合った実践を記録することが多かった。しかし、遊びが広がったり深まったりした要因を探るためには、教師の援助や環境構成が幼児の思いとすれ違ったと教師が捉えた事例をもとに、何が原因だったのか、その他の手立てとしてどのようなことが考えられるかを話し合う必要もあるのではないかと考えた。そこで、あえて広がったり深まったりしなかった実践記録を取って話し合う機会をもつことによって、遊びが広がったり深まったりするための援助や環境構成を探ることにした。

F児は「お化けがいて
ー」と、手でポリ袋の
動きを止めようとした
り動くポリ袋を追いつ
けたりする。

G、H児がやって来て動く
ポリ袋の間を走った後「何
してるの？」と尋ねる。そ
の後、ポリ袋同士や柱にテ
ープどめをする。



昼食の時間になり、片
付けると、その後、誰
もお化けの家で遊ぶ様
子は見られない。

昨日の状態から手を加
えず、様子を見る。

他の場所で遊
んでいる。

お化けの家
に隠れにい
く子どもが
いる。



「かくれんぼ」で遊ん
でいる時に「お化けの
お家に隠れよう」と誘
い掛ける。

かくれんぼが終わると
他の場所に遊びに行っ
てしまう。

教師同士の話し合いから

担任の思い

他教師の意見

お化けの家をつくろうと思った教師の思いは？

イメージを共有して遊んでほしい

どんなイメージ？
お化けの家づくり？

自分がお化けに
なる遊び？

おいかけっこを楽しんで
いるから今度はごっこに
つながらないかと思って

暗い場所をつくった方
がごっことして楽しめ
たのでは？

だったら自分がお化けになっ
た方が楽しめたのかも？

話し合いから見てきたこと
教師が漠然とした思いで遊びを提案してしまった
から、遊びが継続しなかったのでは？

なぜ、ポリ袋を使ったの？



お化け屋敷のイ
メージではない
お化けの家にし
たかったの



ゆれる動きがお
化けのイメージ
に合うのではな
いと思ったの

家なら、
囲いたくなるの
ではないのかな？

ゆれる動きなら自分がお化けに
なった方が楽しめたかも？身に
付けるものをつくることも遊び
が広がるきっかけになるかも？



話し合いから
見てきたこと
どういう遊びにつなげたい
のかがあいまいだったから、
子どもも遊びの楽しさを感じ
にくかったのでは？

「かくれんぼ」で隠れ
ようとしたのはなぜ？



お化けから隠れた
かったのかな？

お化けの家に関わ
るきっかけにして
ほしかったの

お化けになって
逃げたかったの
かな？

話し合いから見てきたこと
ごっこと追いかけて、どちらの遊びの方向にいくのかがあ
いまいだったから、家を遊びに取り入れにくかったのでは？

遊びが広がったり深まったりするための教師の援助や環境構成

遊びが広がったり深まったりする要因	他に考えられる活動の広がり
・子どもの遊びの読み取り ・教師がどのような遊びにつなげたいと 思っているのかの明確さ ・教師の遊びに対する漠然とした思いの 具体化	・暗くなる環境でのお化けづくり を楽しむ ・追いかけてこの遊びを広げる ・身に付けるものをつくって、お 化けになることを楽しむ

2年次の成果と課題

2年次の研究の成果

- ・教師の援助や環境構成によって遊びがどのように広がったり、深まったりするかを明らかにした。
- ・遊びが広がったり、深まったりした要因を教師の援助や環境構成に視点をあて、具体的に探ることで、各年齢によつての援助や環境構成の違いを明らかにした。
- ・「遊びに生きる子どもの姿」を見直すことで、遊びに生きる子どもの姿は日々の生活の中で少しずつ育まれていくことを見出した。

3年次に向けて

- ・遊びの変容がもっと分かたらいいな
- ・遊びが広がったり、深まったりする中での子どもの育ちを捉えていこう
- ・教師が「遊び」や「遊びの楽しさ」を知ることが大切ではないか。